

令和8年9月2日

保護者各位

南アルプス市立白根飯野小学校
校 長 神宮司 剛

全国学力・学習状況調査の結果と本校の傾向と対策について(報告)

爽秋の候、保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校教育に対し、多大なるご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本年4月23日に、6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本調査は、児童一人一人の学力の状況を客観的に把握し、全国的な傾向と照らし合わせることで、成果や課題を明らかにし、今後の学習指導の充実に役立てることを目的としています。

8月に公表された結果を受け、本校では全職員で内容を精査・分析いたしました。本報告書ではその分析結果と今後の改善策についてお知らせします。飯野小学校として、どのような授業改善に取り組んでいくか全体で確認をしました。教師一人一人が、担当する授業において次に示す改善を図り、さらなる向上を目指していきます。

つきまして、保護者の皆様に、本校の傾向と対策について概要報告をさせていただきます。内容をご理解いただき、子どもたちの学力向上について、学校と家庭の両方でさらに連携し、取り組んでまいりたいと存じます。あわせて、市全体のまとめも付記しましたのでご覧ください。

1 学力調査結果(国語・算数)

【傾向】○全体的に良い傾向のもの(成果) ▼改善に向け努力が必要なもの(課題)

教 科	国 語
集計結果	○国語全体の平均正答率は、全国および山梨県の平均正答率と同程度の結果となりました。観点別でも、漢字や言葉などの「知識・技能」を問う問題や自分の考えをまとめるなどの「思考力・判断力・表現力等」を問う問題の平均正答率は、全国および山梨県と同程度の結果でした。
傾向	○相手に伝わる話の構成 ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考える問題において、全国や山梨県の正答率と同程度の結果でした。 ○表現の工夫や文章構造の読み取り ・文章中の表現(比喩や反復など)の工夫に気づく問題や、必要な情報を見つけたり、情報と情報の関係を理解したりする問題において、全国や山梨県の正答率を上回る結果でした。 ○目的に応じた情報抽出と活用 必要な情報を目的に合わせて見つけ出す問題や、引用を用いて自分の考えが伝わるように工夫して書く問題において、全国や山梨県の正答率を上回る結果でした。 ▼文章全体の構成や自分の考えのまとめ方 読み取った情報や資料を活用しながら、筋道の通った文章を構成したり、自身の考えをまとめて表現したりする問題で課題が見られました。 ▼記述問題における無回答率の高さ 自分の考えを長文で書き表す記述問題において、最後まで書く時間が取れなかったり、書き始められず白紙のまま提出したりする児童の割合が全国や山梨県に比べて高い傾向にありました。 ▼漢字の正確な定着 学年相当の漢字を、文脈に合わせて正しく書き表す問題で課題が見られました。
対策	○「自分の考えを言葉でまとめる・書く」手立ての充実 ・授業の中で、文章や図表から読み取ったことに「自分の経験や考え」を結び付けて書く場面を積極的に設定します。 ・友だちとの対話や意見交換を通して気付きを深め、自分の考えを整理して書く活動を工夫します。

対 策	・「まずは一言でも書いてみる」ステップを大切に、記述問題への心理的ハードルを下げ、最後まで粘り強く書ききる力を育てます。 ○日常的な漢字学習・言葉の定着 ・「読むこと」の学習と図書室の活用・読書活動を連動させ、日常的に多様な本に親しめる環境を整えます。 ・単なる暗記ではなく、日常のドリル学習で正しく書く基礎を整えるとともに、様々な場面での書く活動を通して、文脈に応じて正しく漢字を活用する力を育てます。 ○全教科を通じた「思考・表現」の育成 ・国語の時間だけでなく、全教科で「自分の考えを友達に伝える」「根拠をもって記述する」機会を増やし、発信力を高めます。 ・「書くこと」を通して自分の成長を実感できるよう、学年ごとに書く習慣づくりを進めます。
教 科	算 数
集計結果	○算数全体の平均正答率は、全国や山梨県の平均正答率と同程度の結果となりました。観点別でも、数・計算の仕組みなどの「知識・技能」を問う問題や、筋道を立てて考え、説明するなどの「思考力・判断力・表現力等」を問う問題の平均正答率は、全国や山梨県と同程度の結果でした。
傾 向	○割合や混み具合の立式と意味の理解 ・問題の条件から正しく立式して全体量を求めたり、式の意味を正しく捉えて混み具合を判断したりする問題において、全国や山梨県の正答率を上回る結果でした。 ○小数の仕組みと数の構成の理解 ・十進位取り記数法に基づいた小数の仕組みや数の構成に関する問題において、全国や山梨県の正答率と同程度でした。 ○分数の大きさの比較と数直線上の位置の理解 分数の大小関係を判断して理由を捉える問題や、数直線上で基準となる整数の位置を正確に見つけ出す問題において、全国や山梨県の正答率を上回る結果でした。 ▼立体図形の体積の理解と問題解決の表現 ・立方体の体積の公式を使った立式や、図形を構成する要素(縦・横・高さ)に着目して体積の意味を捉えたり解き方のプロセスを表現したりする力に課題が見られます。 ▼目的に応じた概数の処理と理解 ・大きな数を指定された位まで四捨五入し、目的に合わせた概数で正しく表す基礎的な力に課題が見られます。 ▼複雑な表からの情報の整理と読み取り ・二次元の表のように複数の情報が交差するデータから、必要な条件を正確に組み合わせて数値を読み取る力に課題が見られます。 ▼全国や山梨県に比べ、全体的に無回答率にやや高い傾向が見られた。
対 策	○「なぜそうなるのか」を可視化・言語化する授業づくり ・公式の丸暗記にとどまらず、ブロックや図形などの具体物を使ったり、図や式に表したりして「意味を実感できる」指導を行います。 ・自分の考えを友だちや学級全体に言葉で説明する場面(言語活動)を増やすことで、「理由を説明する力」を育てます。 ○生活に結びついた算数体験と情報活用 ・身の回りの図形や日常生活(買い物・割引・データの比較など)と結びつけた課題を取り入れ、算数を「使う」実感を高めます。 ・条件に合わせて表やグラフを整理し、必要な情報を見つけ出す練習を繰り返し行います。 ○デジタルドリルや個別指導による徹底サポート ・タブレット端末のドリルアプリを活用し、児童一人一人のつまずきに合わせた復習・個別学習を進めます。 ・複数教員での指導体制を工夫し、TT(チームティーチング)による、一人一人の習熟度に応じたサポートを行います。



2 児童質問紙結果

この調査は学力だけでなく、普段の学習に向かう姿勢、学習習慣・生活習慣についても調査を行い、全国的な傾向と照らし、個々の課題を把握しています。学習習慣・生活習慣の確立については、ご家庭との連携が必要です。ご理解、ご協力をお願いします。

【傾向】○全体的に良い傾向のもの(成果) ▼改善に向け努力が必要なもの(課題)

傾 向	○高い自己肯定感と前向きな将来像 ・「自分にはよいところがある」「将来の夢を持っている」などの項目で肯定的な回答が多く、児童が自信を持ち、未来に前向きな希望を抱いていることがわかります。 ○思いやりの心と関わり合いながら学ぶ姿勢 ・「困っている人を進んで助ける」「話し合いを通じて自分の考えを深められている」など、の項目で肯定的な回答が多く、児童の温かい人間関係があり、授業中も友だちと協力して話し合える環境が整っていることがわかります。 ○ICT 機器の活用意識 ・タブレット等を使った情報収集や表現活動についての項目で肯定的な回答が多く、多くの児童が「できる」「得意だ」と自信を持って取り組んでいることがわかります。 ▼学んだことの「活用」と表現力の育成 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「授業で学んだことを次の学習や生活に結び付ける」といった項目の肯定率が低く、身に付けた知識を実際の学習や生活で活用・表現することに課題があります。 ▼家庭での学習習慣とメディア利用の時間 ・平日に十分な学習時間を確保できている児童が半数以下にとどまる一方、スマートフォンやゲーム、動画視聴などのメディア利用時間が長い児童の割合が、全国と比べて非常に高い状況にあります。家庭学習の習慣化と、メディアとの付き合い方についての見直しが課題となっています。
対 策	○達成感と自己有用感を味わえる集団づくり ・課題や目的をもって最後までやり遂げる達成感を大切にします。 - また、児童同士が関わり合い、互いを認め合える活動、及び教職員による丁寧な承認・価値付けを通して「役に立っている」という自己有用感を高め、集団としての高まりを目指します。 ○主体的に行動する力の育成 ・学校行事や児童会活動を通じ、学校や集団をより良くする活動に取り組みます。自分の考えを伝えたり相手の意見を認めたりしながら、自分たちで判断して行動する力を育てます。 ○自ら学び、考えを伝える授業改善 ・各教科の特性を生かした学習方法の工夫により、学習の楽しさを味わわせるとともに、自ら学び・考え・自分の言葉で相手に伝える力を育てていきます。 ○ICT 機器を活用した多面的な視点と尊重する態度の育成 ・児童が得意とする ICT 機器を授業で効果的に活用し、物事を多様な視点で捉える姿勢や、自分とは異なる考えを尊重するしなやかな心を育てます。 ○新聞や地域人材の活用による社会への関心の高まり ・学習活動や日常の学校生活の中で、新聞や地域の人材(ゲストティーチャー等)を積極的に活用し、身の回りの地域や社会への興味・関心を広げていきます。



【ご家庭へのお願い】

お子様の健やかな成長と確かな学力の定着のためには、学校生活だけではなく、ご家庭での温かい励ましや、生活習慣の確立が大切です。本校の分析結果で明らかになった成果を伸ばし、課題を克服できるよう、保護者の皆様と連携して以下の取組を進めてまいりたいと考えております。

○家庭学習の習慣化(「家学パワーアップ週間」の活用)

平日に短時間でも毎日決まった時間に机に向かう習慣をつくりましょう。タブレット端末でのデジタルドリルや家庭学習プリントを活用した自学自習も効果的です。全校で毎月「家学(家庭学習)パワーアップ週間」を設定して取り組んでおりますので、学習内容の確実な定着に向け、ご理解・ご協力をお願いいたします。

(※1年生は9月から始まります。)

○探究心や「書く・伝える」意欲を促す温かい声かけ

学校でのタブレット活用や授業での話し合いが、ご家庭での「自ら調べ、探究する姿勢」や「自分の言葉で表現する力」へと繋がるよう、日常の会話の中で「どう思う?」「今日どんなことを調べたの?」とお子様の取組を温かく励ましてください。

○メディア利用時間のルール見直しと環境づくり

調査結果においても、メディア利用時間が長くなると家庭学習の時間や睡眠などに影響が出やすい実態がうかがえます。スマートフォン、ゲーム、SNS、動画視聴などが長時間に及ばないよう、ご家庭で利用時間やルールの再確認(ノーメディアタイムの設定など)をお願いいたします。

【最後に】

子どもたちは、学校生活の中で互いの良さを認め合い、友達と協力しながら毎日生き生きと学習に励んでいます。この「自己肯定感」や「前向きな姿勢」という本校の大きな強みを土台としながら、学校と家庭が手を取り合って「自分で考え、表現し、やり遂げる力」を育んでまいりたいと考えております。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

